



# CSR重要課題の持続的な取り組み

当社の創業者である波多野鶴吉の考え方の一つに「社会のため」という荷を加える」というものがあります。これは売上や利益だけではなく「社会のため」という目標を加えることにより、片荷から両荷にしてバランスの取れた経営を目指す、という考え方です。また、創業者は「売って喜び、買って喜び」という言葉も残っています。近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」という「三方よし」と同じ考え方です。

当社では昨年度、企業経営に最も関連するCSR重要課題を「グンゼのマテリアリティ」として特定しました。2018年度からは、今一度創業の精神に立ち返り、自社グループが有する技術やノウハウなどのリソースを活用し、本業を通じて社会課題の解決に貢献するCSV (Creating Shared Value 共通価値の創造) という攻めのCSR活動を進めていきます。

2015年国連で採択されたSDGsの17の目標について、社会課題起点で活動を考えるという意味のアウトサイドインのアプローチを参照し、当社グループの4つのマテリアリティに基づいて活動します。部門ごとにCSV目標とKPI指標を設定し、具体的な課題解決にむけた活動を推進していきます。



取締役人事総務部長  
CSR・コンプライアンス担当 赤瀬 康宏

## ESG (環境・社会・ガバナンス)とは

ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったものです。今日では、企業の持続的な成長と関連性が高い「環境対応(E)、社会責任(S)、企業統治(G)」に対する経営的取り組みが必要であるという考え方が急速に広がっています。また、企業の株主である機関投資家を中心に、投資において財務情報のみならず非財務情報であるESGも考慮することが増えてきています。(ESG投資)



### E (Environment) 環境で求められること

- 地球温暖化対策
- 環境負荷低減のための取り組み
- 環境関連ビジネスの拡大
- 事業を通じた環境問題の解決など



### S (Social) 社会で求められること

- 人権啓発の推進・ダイバーシティ向上
- 顧客の安全品質確保
- 従業員・家族の健康増進
- 地域社会の健康促進参画
- 女性活躍推進
- グンゼグループサプライヤー行動規範の遵守
- 事業を通じた社会問題の解決など



### G (Governance) ガバナンスで求められること

- リスクマネジメント体制の構築
- コンプライアンスの徹底
- 災害対策とマネジメント
- データセキュリティとプライバシーの保護など

## マテリアリティ (CSR重要課題) の特定プロセス

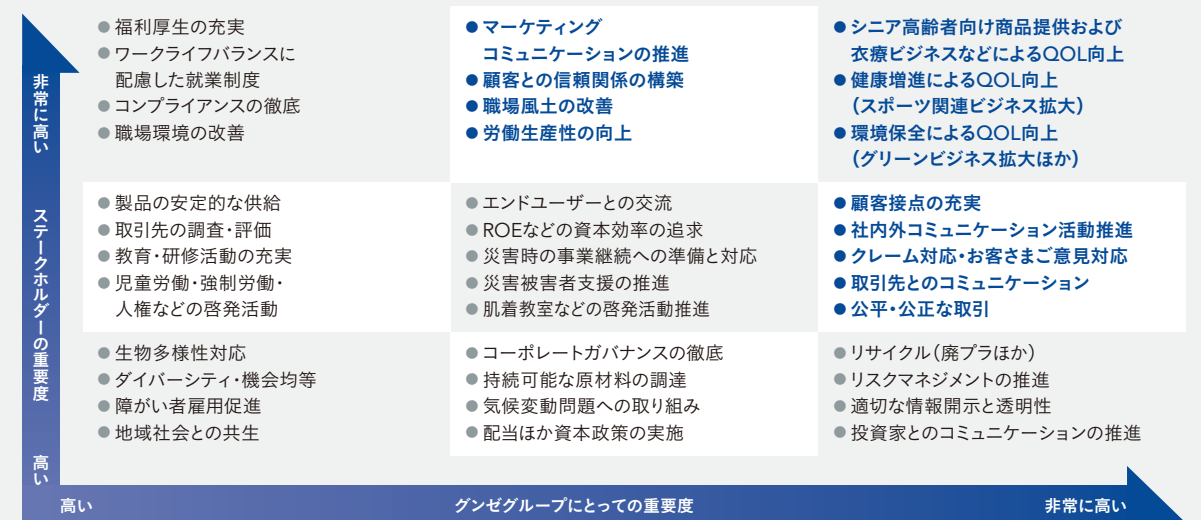
グンゼグループは「創業の精神」に立ち返り、本業を通じて社会を取り巻く課題の解決を進めています。

### ステークホルダーアンケートの実施

第1ステップとして、49項目の課題の中からグンゼグループの重要課題を選定するアンケートを構成員(ステークホルダー)を対象に実施。1,184件の回答から課題を上位30項目に絞り込みました。

### CSR重要課題の分類

重要課題として絞り込んだ30項目をもとに、ESGやSDGsの視点、また従業員以外のステークホルダーの意見などと照合し、「ステークホルダーの重要度」と「グンゼグループにとっての重要度」の2軸で総合的に評価し、CSR重要課題をマッピング、優先順位をつけました。



\*アンケート第1位の「ブランド価値の向上」は、課題遂行による結果指標となるので上記から割愛

### マテリアリティの特定

上記、CSR重要課題の分類・マッピングに基づき、中期経営計画「CAN 20」を、スピードをもって達成できるよう、①「QOLの向上への貢献」 ②「緑豊かな環境づくりと環境問題対応」 ③「職場環境改善・働き方改革」 ④「より良いコミュニティ・社会づくり」をグンゼのマテリアリティ (CSR重要課題) と位置付けました。最終的にCSR重要課題は、CSR委員会で審議した上で、グンゼの「マテリアリティ」として決定しました。



\*「より良いコミュニティ・社会づくり」については、各部門CSR推進リーダーによる従前の通年活動で推進。

